

水草研究会会報投稿規定

1. 投稿は本会会員に限る。但し、本会が依頼した場合はこの限りではない。
2. 原稿内容は、水草*に関する調査、研究報告、解説（総説）、短報、諸資料、諸情報、エッセイ、他とする。なお原稿の内容に疑義のある場合は、書き直しを求めることがある。
3. 原稿作成にあたっては、以下の諸点に留意する。
 - A. 原稿は横書き原稿用紙に楷書するか、ワープロ（和文タイプ）を用いる。
 - B. 原著に相当する報文には著者名及びタイトルの英語を併記すること。また、著者が必要と認めた場合は、英文摘要（Abstract）をつけることができる。
 - C. 図は活字の貼り込みをのぞき、そのまま製版できるように仕上げる。図（写真含む）の右上または裏面に、図の番号と著者名を書き、説明は別紙に一括する。表は別紙に書く。表の説明は各表の上側につけ、必要に応じ、下に注をつける。
 - D. 文献の引用は、文献番号ではなく、著者名と年号を明記する。
(例) 『三木 (1937) は、…』 『…である (三木, 1937)』。また、文末の引用文献は、最近号の例にならって、著者の姓名のアルファベット順に配列する。
4. 掲載の順序と体裁、並びに校正は編集担当者に一任のこと。なお、特に希望する点があれば申し出る。
5. 別刷を必要とする場合は、投稿時に必要部数を申し込むこと（50部以上、50部単位）。費用は著者負担とする。
6. 送稿や編集に関する通信は、〒657 神戸市灘区鶴甲 1-2-1 神戸大学鶴甲学舎生物学教室 角野康郎宛とする。
*ここで言う水草は狭義の水草に限定せず、広く湿地や水辺の植物なども含むものとする。

〔編集後記〕

夏の釧路の全国集会は、遠方にもかかわらず盛会でした。報告は次号に掲載します。来年は、九州に飛びます。佐賀県で開催の準備をしていただくことになりました。楽しみです。

さて、今回の会報は、若干原稿不足でした。多くの雑誌が、同じように原稿不足に悩んでいます。たくさん雑誌が乱立(?)していること、若い人が外国の国際誌に投稿するようになったことが原因です。水草研究会に関して言えば、全国集会の発表は年を追って増える一方です。決して悲観的な状況ではありません。全国集會に参加されなくても、各地で調査を進めておられる方、水辺環境のあり方にご意見をお持ちの方、たくさんおられます。これをぜひ形にして残して欲しいと思います。皆さん忙しすぎるのかな、と思いつつ、次号の編集を思いやる秋です。と書いていたら、今日、全国集會の講演の原稿が3つもまとめて届きました。次号は一層充実した号になるよう、そして発行が遅れないようがんばります。

(角野康郎)